

学位論文審査の結果の要旨

酒井 佑輔

本研究は、ブラジルアマゾンのトメアスーへと渡った日系移民による教育の総体について unlearn 概念を用いて明らかにしたものである。本研究では、まず西欧で主に議論されている①人種主義・白人優越主義、②セクシャリティーと異性愛主義、③先住民や移民・難民における unlearn の概念を整理した。次に、ガヤトリ・スピヴァク (Gayatri Spivak) と、鶴見俊輔、大江健三郎、前平泰志、そして日本の学校教育で議論されている unlearn の定義やその特徴を整理した上で、①現代社会や学校教育等を通じて自分自身が築き上げてきたものの見方や認識、あるいはそれを構成する知識のあり方を批判的に検討する、②既存の社会構造や学校を通じてつくりあげた認識にもとづき、自己よりも社会的に劣位に置かれる「他者」との対話・学習関係から自分自身が学び変容する、という共通項を明らかにした。

次に、ブラジルの日系移民の教育研究においてこれまで注目されてこなかったブラジルパラ州トメアスーの日系移民によるフォーマル教育（学校教育と日本語教育）と、ノンフォーマル教育（移住支援機関による農事講習会や、青年・婦人学級、トメアスー総合農業協同組合が取り組んだ営農指導や後継者育成、日系農家による営農指導等）の歴史的変遷やその特徴を具体的に明らかにした。

以上のように、本論文は多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して本論文が博士（学術）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

酒井佑輔

最終試験は、平成29年7月1日に東京農工大学農学部にて、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は酒井佑輔君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士(学術)の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。

◎博士(学術)を授与する理由

本研究は、ブラジル・アマゾンのトメアスーにおける日系移民(農民)による教育の総体について、unlearn 概念を用いて明らかにしたものである。農法論の視点からトメアスーにおける農業発展の歴史的変遷とアグロフォレストリー(森林農業)の現状を踏まえつつも、教育学における新たな学習論の提起を行っている。これは、農学を基礎にアマゾン農業の歴史と課題を明らかにしつつも、学問分野を超えた学術的に重要な研究成果であると言える。その意義を踏まえて、本学位論文審査委員会は、全員一致して、博士(学術)を授与することが適当と判断した。